



# 碧南ロータリークラブ"週報"

第2340回例会 平成18年11月29日(水)

●会長 杉浦健次 ●幹事 石川春久 ●会場監督(SAA) 棚田道和

■例会日 毎週水曜日 12:30 ■例会場 碧南商工会議所ホール

■事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100

ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>

E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)

■会報委員 角谷信二・新美惣英・清澤聰之



2006~2007年度  
国際ロータリーのテーマ

**LEAD THE WAY**

**率先しよう**

できるひとが  
できるときに  
できるところで

## ● 齊唱

ロータリーソング「手に手つないで」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子



杉浦健次会長

## 会長挨拶

去る11月23日に「西三河分区ガバナー補佐杯親睦ゴルフ大会」が雨天の予想に反し、すばらしい好天に恵まれアウト・イン15組ずつの多数の参加のもと盛大に行われました。わが碧南RCは知立RC、刈谷RCに次いで団体戦3位と健闘いたしました。又、個人戦は石川春久幹事が第5位に入賞されました。出場の皆様には大変ご苦労さまでした。さて、碧南RCの91歳の最高齢会員であられる小林清先生が「新しい旅」と題しての自伝を出版され拝読をいたしました。過去に「終わりなき旅」「続・終わりなき旅」「続々・終わりなき旅」の3冊を出版してみえます。茨城県古河町の生まれ故郷の思い出、高校大学での青少年時代の想い、27歳の戦地海南島での15メートルの至近距離からの狙撃にあい九死に一生を得た体験などを通して確立されていく先生のお人柄、敬虔なクリスチャンとなられる様が書かれており心打たれる想いが致しました。特に亡き奥様きよ様の事を4冊目にして始めて書いたとご自分でも述べてみえますが、「賢い妻は夫の冠」という聖書の言葉を引用し「新しい旅を始めると言えば恋女房もどこから駆けつけてくると思う」と夫婦愛の深さをさとしてみえます。そして、これから二人で人の心を温かくするような新しい旅を始めたい、その一つとして旧知の日野原重明聖路加国際病院理事長が進めている「新老人の会」の運動に賛同し、戦争を体験した者として命の尊さを再認識し健やかな心を育む社会づくりのお役に立ちたい、また、そういう新老人の仲間を増やしたいとの情熱を持っておみえになります。ロータリークラブの活動と相通じるものがあるものと存じます。今後のご活躍を祈念申し上げます。本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 幹事報告

他クラブの例会変更等は幹事報告書の通り。

次週2341回例会は年次総会です。



石川春久幹事

## 委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 78名 (内出席免除者 13名)	出席者 60名
-----------------------	---------

出席対象者 50/65名	出席率 76.92%
--------------	------------

欠席者 18名 (病欠者 0名)	前々回修正出席率 98.46 %
------------------	------------------

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

### 〈ニコボックス委員会〉

- 青木 稔君 この一年「短歌」応援下さりありがとうございました。今月の作品は杉浦会長はじめ多くの碧南RCの諸兄と一緒に旅でした。霧につつまれたチンタオの街が印象的ありました。
- 鈴木 輝彦君 昨日平松 太様にお世話になりました。ありがとうございました。
- 新美 真司君 去る11/10愛知県庁にて2,600件の工事の中から建築部門15社の優良施工業者として表彰されました。
- 堀田 益隆君 昨日、けんしん旭支店において『年末・年始金融防犯訓練』を碧南警察署のご協力により実施し、防犯意識の向上に成果がありました。
- 深澤 元喜君 碧南火力発電所の石炭受入れ量が累計で1億トンに到達しました。
- 織田 典隆君 本日は卓話をさせて頂き感謝しております。自由な形で聞いていただいたら幸いです。
- 石野 義弘君 今日は貴重なお時間をおりしまして卓話をさせて頂きます。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 〈雑誌委員会〉

青木稔君の短歌がロータリーの友12月号⑯ページに掲載されました。

『白昼の海より立ちし白霧に 脣ろとなりぬ青島の街』

## 卓 話

### 「私の履歴書」 織田典隆君

こんにちは 本日は私にこのような機会を与えて頂き感謝しております。私の履歴書と題しまして話を進めさせて頂きます。まず、生まれは1959年4月20日です。生まれも育ちも岡崎市でございます。この岡崎の地で義務教育を受け、高校・大学と進学し1982年3月8日に岡崎信用金庫に入庫しました。勤務期間は現在まで24年8ヶ月です。つまり24年8ヶ月信金拘束ということです。碧南中央支店までの流れを申しますと上前津支店（名古屋市中区）岡崎駅前支店（現在は区画整理のため廃店）花田支店（豊橋市、今月6日にリニューアルオープンしました。）幸田支店（額田郡幸田町）高師支店（豊橋市）岩津支店（岡崎市）一社支店（名古屋市名東区）本店営業部（岡崎市）碧南中央支店ということです。次に各支店でどのような業務をしていたかをお話しますと新入職員として配属された上前津支店では、まず定期預金係、出納係、渉外、岡崎駅前、花田、幸田、高師の各支店では渉外、岩津支店は融資、一社支店で次長、本店営業部は融資課次長、碧南中央支店で支店長を任命されました。そんな理由で今、24年8ヶ月という信金拘束から学んだこと、各セミナーに参加させて頂き、最近のキーワードは武士道・やる気・ものづくりです。このキーワードは何を意味するのか？それは、17年後の日本の選択です。その前に日本の金融資産の1,400兆円は60才以上の方が80%所有していることが現状です。だから、17年後なのです。それで日本の選択は、今まであれば3つとなります。（1）中国の経済属国になるのか？（2）アメリカの51番目の州になるのか？（3）最悪は難民の国になるのか？以上です。これらを避ける為には技術大国日本の復活が生き残る条件です。それには、世界の競争に勝てる商人財づくり（武士道・やる気・ものづくりによる教育訓練）が最も重要です。つまり、大量生産、リピート生産による共存共栄ではなく、分業共栄でなければならない。すなわち、大量リピート生産は中国、インドに任せればよいことです。これらを可能にするには、「社員のやる気」が不可欠です。さらにはロータリークラブの会員である方は、社員の情熱をかきたて、最大限に活躍して頂く舞台を創ることです。これから企業が求める人財づくりとは、会社自体が社員の人財育成として示すことが必要です。それは（1）強い精神力のある人（2）やる気と活力を持ち前向きな人（3）愚直にコツコツと



努力し続け忍耐力のある人、以上です。最後に常識という知識は時として進歩の邪魔をしているものがあります。では、皆様のご健闘を期待しております。ご清聴感謝します。ありがとうございました。

### 「私の履歴書」 石野義弘君

日本金属工業の石野です。今年の7月より、この碧南ロータリークラブに入会させて頂きました。今回、貴重なお時間を頂きましたので、私の履歴書ということでお話させて頂きます。あわせまして私の勤務しております日本金属工業につきまして、すこし紹介させて頂きます。私は、昭和22年の11月に生まれました。親父は新潟県出身、母親は福井県の出身ですが私は名古屋で生まれまして、大学までずっと名古屋育ちです。大学は工学部で金属を専攻し、そのまま昭和47年に弊社に入社しました。入社のいきさつは、ちょうど卒業でどこの会社に就職しようかと考えていた時、中日新聞に大きく碧南市に日本金属工業が進出という見出しが出まして、できれば名古屋からかよえる所を探していました私にとりましては、ちょうど良い所が見つかったと思い入社しました。それ以来、今年で35年目となりましたが、この間に神奈川県の相模原に2回転勤をしていますが、碧南勤務が20年以上となり第2のふるさとになってしまいました。碧南について、私の感じていることを少し話させて頂きます。名古屋で小学校3年生のころの昭和30年すぎであったと記憶していますが、社会科のテストで愛知県の10都市あげなさいというのがありますと、当時から碧南は市として愛知県でも古くから都市であることを記憶していました。就職して碧南に来るまで、刈谷までしか来たことがありませんでしたので昭和47年にはじめて碧南に来たときは当時の新須磨の駅に降りて暗い道を伏見屋の社宅までとぼとぼと歩いていき、この先どうなるのかと正直言って、ちょっとわびしい気持ちになってしまいました。それから、碧南も時代とともに変遷が著しく大変モダンな街となりまして私が特に気にいっていますのは、北新川の図書館の街路樹です。今、豆電球によるイルミネーションがとてもきれいで名古屋や東京の大規模さがなく、こじんまりとして品のある、とても幻想的な世界を醸し出してくれます。さて、私の勤務しております日本金属工業につきまして少し紹介させて頂きます。当社は、昭和7年（1932年）に創立いたしまして、当社が最初にステンレス鋼の国産化に成功し、現在までステンレスのパイオニアとしての位置づけを自負しております。当初は、横浜、川崎さらに相模原と神奈川県に製造拠点を置いておりましたが先ほどお話させて頂きましたように昭和47年（1972年）に衣浦に最新鋭の工場を建設いたしました。ステンレスとは鉄にCrやNi等の金属を混ぜて鉄の錆の問題を解消する特徴があります。私たちの製造所では、原料となるスクラップやNi、Cr等の原料を電気炉で1回あたり80トン溶かして、その後精錬工程をへて連続铸造にて厚さ160、200mmで巾最大5フィートまでの羊羹のようなスラブをつくります。このスラブを3mm厚み程度まで熱間圧延機によって圧延しましてコイルができあがります。この状態では、ステンレスの白いイメージではなく黒色ですが、この後冷延工場でコイルを酸で洗って白い色になり、この後所定の厚さまで冷間圧延をして製品化いたします。現在、ステンレスの製品量は月産3万トン程度です。Niの高騰が最大の問題で、この1年でNi価格は2倍強上がっておりまして製品の価格にも大きく影響いたします。ユーザーの皆様には、この価格アップ分のご理解を頂くべくお願いしているところです。また、一度機会をつくって頂き、製造所の方へおいで頂ければと思っております。最後になりますが、この1年で製造拠点を子会社も含めて集約されました。生産の拠点はこの碧南ひとつです。従業員もたくさん碧南に移転してきて、皆様に大変お世話になりますがどうぞよろしくお願ひいたします。ご清聴ありがとうございました。



次回例会案内 平成18年12月13日（水）  
地区新世代委員会委員 米山郁生氏  
「新世代への問いかけ 絵から心を読む」